

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2010年9月20日

第 329 号

時の流れを超えて 地域に根づく

理事長

稲松義人

山梨県甲府市から西に車で約30分のところに、市川三郷町という町があります。2005年に市川大門町と三珠町、六郷町が合併し、市川三郷町となりましたが、人口2万人足らずの小さな町です。そこに、ひかりの家学園という障がいのある幼児の通園施設があります。創立されたのは1974年で今年36年目ですが、学園の開設には、それ以前の日本キリスト教団市川教会と、教会が設立した市川幼稚園の長い歴史からの流れがあります。

小羊学園とひかりの家学園の交流は、ひかりの家学園の開設にあたって、二人の保母さんが研修を兼ねて、小羊学園とおおぞらの家(小羊学園から分かれた重症心身障害児施設、現在の聖隷おおぞら療育センター)で、それぞれ半年間働いてくださったことにはじまると聞いています。小羊学園で勤務された春美さんは、以前に小羊学園の創立記念会に合わせて開かれた同窓会にもご家族連れで参加してくださったことがあり、その後何度かお会いし、私も親しくさせていただきました。

ひかりの家学園の10周年、20周年には、小羊学園から山浦園長が出席した

ようですが、私も30周年にご招待いただき、初めて教会と学園を訪ねることができました。

市川教会の牧師で、幼稚園(学校法人)、ひかりの家学園(社会福祉法人)の理事長、園長を兼務しておられた三井賢先生の計報を聞いたのは今年の6月初旬でした。体の不安を抱えながらお仕事されていたことを、後日お聞きしましたが、お目にかかるときにはいっつもにこやかに接してくださいましたので、本当にびっくりいたしました。責任者を兼務せざるを得ないような小さな学校法人、社会福祉法人の責任者を本務である牧師と兼務しておられた先生のご苦勞を思いました。また、小羊学園でも16年前に山浦俊治理事長が現役で急逝したときの法人として戸惑いと不安が思い出され、遺された教会、幼稚園、ひかりの家学園の職員の皆さまの心中を思いました。

葬儀にも出席できず、その後なかなか機会がありませんでしたが、三井先生の召天からおおよそ3か月経って、先日甲府に行く用があり、ひかりの家学園をお訪ねすることができました。急な申し出で、しかも短時間の滞在にもかかわらず、快く迎えてくださり、2年前に建て替えたという新しい園舎も見せていただきました。

明治時代にすでに、小さな田舎の町にキリスト教会が立てられたことにもちょっとした驚きを感じますが、合わ

せて創立90年という幼稚園を通して、地域の子どもたちの豊かな育ちのために働いてこられた事実、地域に根づいた社会事業の歴史の重さを感じます。そして、幼稚園に通うことの難しいハンディのある子どもたちがいることに目を注ぎ、障がいのある子の通園施設を開設されたのが36年前ということです。何十人も子どもたちが集まるという地域でもないでしょうから、運営もさぞ御苦勞だったと思うのです。だからこそ、今回の改築は、教会の皆さまの祈りと、それを支えてくださった地域の人たちの温かい心の結実だと感じます。

新しく建てられたひかりの家学園の園舎は、市川幼稚園と園庭を共有し、自然な遊びを通じて交流し、ともに育っていくことへの配慮がなされていることを感じました。町の未来を担う子どもたちが、障がいがあってもなくても、町の人たちの温かい心に育まれ、ともに育ち合っていく場を、ひかりの家学園と市川幼稚園が提供しているのだと思えました。

小羊学園は、人口80万人を超える浜松市において、地域の人たちと一緒に子どもたちの健やかな成長を、あるいは知的ハンディをもつ人たちの安心で暮らすを支える仕組みをどのような形で創っていくことができるでしょうか。ひかりの家学園の地道な働きの中から教えられたような気がします。

「熱い」夏が やってきた

放課後支援事業所の取り組み

ぱびるすの

夏季デイサービス

雨宮 寛

「今年もこの時期が来た」というのが、ぱびるすだけでなく放課後の児童会を行っているところの感想ではないかと思います。7月の終わりからの約1ヵ月間は、親御さんにとっても事業所にとっても夏休みとは名ばかりの1年で一番休むことのできない期間になります。

ぱびるす開所当初からの課題ですが、就学前の児童デイサービスと就学児をお預かりしているぱびるすでは、通常、受け入れ時間帯の異なる幼児と就学児童が夏休み期間には重なってしまします。幼児と就学児童をあわせると30名ちかい人数になり、それを一度に受け入れる環境は、今のぱびるすにはありません。人数が重ならないように外出の計画を立てたり工夫をするにも限界があります。そんな中、今回は、小羊学園に関わりの深い遠州栄光教会の一室を借りプログラムを行わせていただきました。以前に大学の教室をお借りしたことはありましたが、子どもたちにとっては、初めての場所であり馴染



みのない場所だけに不安を感じながら夏休みをむかえました。

しかし、そんな不安をよそに子どもたちの好奇心は旺盛でした。教会の中を探検したり、庭でセミを捕まえたり、スタッフが日常と違う環境でバタバタ支援している一方で子どもたちは、すぐに場所に順応してくれました。人のいない礼拝堂を恐る恐る覗き込む子どももいました。雰囲気遊ぶところではないことがわかるのでしょうか、入り込んで困らせることも、ほとんどありませんでした。牧師さんをつかまえて話しかける子どもや、教会に来るお客さんを見つけて話しかける子ども、近隣の病院や施設からお散歩に来る人や、大学の学生さんに手を振ったり、普段とは違った環境の中でも子どもた

ちは、すぐに楽しみを見つけているようでした。教会の子育てをしているご家族の会の方が、お昼にカレーを作ってくださったり、牧師先生がおやつを差し入れてくださったり、皆さん優しく接してくださり貴重な交わりの機会も持たせていただきました。関わってくださった皆様、本当に感謝です。

毎日、暑い日が続きましたが、やはりプールは欠かせない夏のプログラムでした。動物園への外出や工場見学、公園へも毎日のようにでかけました。今年の夏の思い出になってくれたなら幸いです。

今年も80名程度を、1日多い日で20名、平均して15名ほどお預かりしました。毎年の感想ですが、本来なら在籍する学校や地域でこうした子どもたちも、一緒に受け入れてもらえる場が必要なのではないかと感じています。そんな状況が当たり前になる日が来ることを望みます。

わかな

夏休みを振り返って

鈴木 龍一

生活介護オリーブの樹で行っている、放課後支援事業のわかなは、2回目の夏休みを迎えました。今年の夏休みは、利用者さんにとっても、職員にとっても厳しい暑さで、水分補給と熱中症対策には特に注意して、活動に取り組んでいました。



その中でわかなは1日平均10名の利用者さんをお預かりし、7月27日から26日間を夏期の日課として、朝9時から夕方4時までの間を過ごしました。今までは全員が浜北特別支援学校の生徒さんでしたが、今年の夏からは西部特別支援学校の生徒さんも利用されるようになり、地域でのわかなの役割の重要さを再認識しました。

今年は2ヶ月前の6月に、登録者35名の皆さんから利用希望を提出していただき、利用日を決定しました。限られた定員の中で、ご希望通りの日程を組むことが非常に難しく、調整をさせていただき利用日を決定しました。しかしながら、皆さまが満足していただける日数を確保する事ができませんで



夏のわかなの活動はプールでの水遊びが中心で、他の事業所から頂いた大きなプールを使用して、午前もしくは午後に行いました。昨年は家庭用のプールを使用したり、天竜厚生会にプールの借りに行ったりするなど、満足にプールの時間を確保する事ができませんでした。今年には十分に楽しんでいただけたのではないかと考えています。その他の活動としては天竜障害者体育館を利用しての、ボール遊びやマット運動、かけっこ、また室内での創作活動やDVD鑑賞などを行いました。

また、夏の恒例イベントとして、オリブの樹の利用者さんと一緒に、『スイカ割り』や『かき氷作り』、『お菓子すくいゲーム』などを行い、施設全体で夏休みのお楽しみ企画を行いました。

期間中は、皆さまのご協力のおかげ

もあり、大きな事故やケガもなく、安全に過ごすことができました。

毎年夏になると思うのですが、ご家庭で落ち着いてすごすことができるお子さんは問題ないと思いますが、そうでないご家庭では、夏休みの予定を考えるのが非常に大変で、保護者の皆さまは大変ご苦労されていると思います。夏休みの長い期間をどのように過ごすかによっても、二学期のスタート、また、その後の学校や家庭での過ごし方にも影響してくると思います。

そのような状況にわかなが少しでもお役に立てるように、今後も努力していきたいと思っています。

ドルチェ 新たなスタート

杉本 道絵

2007年4月より放課後支援がスタートし早いもので5年が立ちました。初年度、小学2年生だった子も、もう中学生です。また、事業内容も少しずつ変わり今年度は、児童デイサービスが新たな事業として加わり、児童デイサービス10名・日中一時支援事業8名・1日18名定員でお預かりしています。ニーズとしては、他の事業所が開所したこともありドルチェ全体の人数は少し減少し、今年度は契約者数は50名程となっている状況です。

ただし、当初、児童デイサービスの定期的な利用希望の方が多く、人数制

限がある中で児童デイサービスとして受け入れが難しい状態でした。その為、毎日利用される方で共働きの方を最優先に考え、児童デイサービスとしてお預かりし、その他の方についても働いている方を優先として、曜日固定でお預かりしているのが実情です。

ドルチェ内の活動としては、前年度同様、創作活動・おやつ作り・散歩を中心にを行っています。

今回の夏休みは、昨年度に比べ1日の人数も少し増えたり、新たな試みとして行った浜松特別支援学校の夏期デイサービス（ふれあい教室）にもドルチェとして参加したりとバタバタした夏休みでしたが、児童デイサービスが始まったこともあり外出を増やそうということで週1回の外出を計画し、遊覧船・動物園・工場見学（大塚製薬・たこまん・発電所）に行ってきました。

外出では、ボランティアの方も沢山来て下さり、一人一人とじっくりと関わることでもでき、子どもたちにとっても新鮮で新たな発見を見つけることが出来たのではないかと思います。しかし、夏の暑さには野外の外出は、少し厳しく来年は、室内で涼みながらも楽しめる場所に行きたいと反省しています。

その他の活動では、今年度もアンサンブル江之島6Fのお風呂を利用し水遊びを行うことで暑さから少し解放され、夏にしかできない時間も過ごすことができました。しかし、プールといっ

てもお風呂の為、高校生には小さい？と思うぐらいで大丈夫と心配することもありましたが、それでも楽しく遊ぶことができ、水遊びを楽しみに通ってくる子も沢山いました。来年はどこかプールに行けたら良いと思います。

今年度は、児童デイサービスが始まり、毎日通ってくる子も沢山いる中、さまざまなプログラムを行い楽しく充実した夏休みが過ごせたのではないかと思います。しかし、今年の夏は暑かったこともあり子どもたちも後半、少し疲れが出てきて体調を崩してしまう子も多くいた為、来年度の夏休みはもう少しのんびり出来る時間も増やしながら、新たな発見ができる様、色々ことにチャレンジしていきたいと思っています。



「在宅重症心身障害児者への
特殊食提供事業」にとりくみます

つばさ静岡

つばさ静岡は、関連各職種が連携して、嚥下困難者に対する食事の開発に取り組み、利用者や関連事業者の注目を集めています。

そうした成果を、在宅支援に活かすために、「リーフレットの作成」「調理講習会の開催」「配食システムの構築」を柱とした事業を、独立行政法人福祉医療機構の助成を受けて行ないます。

嚥下障害のある重症心身障害児者の食事は、それぞれにあった食形態、食事介助が必要ですが、それに対する支援体制がありません。家族の負担を軽減し楽しみながら食事が出来ることを目的に、一人ひとりに適した食事介助法、食形態に基づいた調理済み食事の提供、調理法の指導などを実施（開催）します。また、経口摂取が可能な状態を維持することによって、医療的ケア（経管栄養）を理由としたさまざまな制限の対象となることなく、社会参加を促進することにもつながるものと考えています。



わかぎ秋祭り

日時 22年11月14日（日）
10:00～14:30
ところ 支援センター わかぎ
浜北区平口 5042
催し 模擬店・喫茶・創作展
イベント・フリーマーケットなど

問い合わせ わかぎ
053-587-2614

— 小羊写真集 ⑪ —

この写真は、名古屋市東山動物園に招待旅行で出掛けた際のスナップです。飛行機型のカートに乗って、少し緊張しながらも満面の笑みを浮かべていますね。

遠足や旅行など、日頃と違う体験は、子どもにとって、楽しい一時であることは言うまでもありませんが、経験値の少ない知的に障がいの方にとって、幼少期にこうした機会を経験することは、とても大切なことだと思うのです。なかには、お出掛けそのものに緊張や不安を覚え、楽しめない子どももいましたが...



つばさ静岡 看護師の募集

静岡市にある重症心身障害児施設つばさ静岡では、引き続き看護師を募集しています。看護資格をお持ちで、興味のある方は、ご連絡下さい。

連絡先：054-249-2830
つばさ静岡 担当 羽山

小羊学園を支える会

2010年度寄付金報告

8月受付分 468,900円（38件）
累計 2,436,912円（177件）

小羊学園への寄付金振込み先

（口座名義）「小羊学園を支える会」
郵便振替口座 00890-4-45415
りそな銀行浜松支店 （普通）040005
静岡銀行細江支店 （普通）043483
ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。
下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局（鈴木）
三方原スクエア内 ☎053-414-1833

編集後記

今年の夏は例年以上の猛暑が続き、猛暑日・熱中症というワードを聞かない日はないほどでした。私自身も心身ともにヘトヘトになった日も多かったですが、皆さんはいかがでしょう。

先日、浜北地区の民生委員会の会議に出席させていただき、地域の実情をお聞きしました。一人暮らし世帯の課題やご近所のトラブルなど、多くの課題があることを伺い知りました。障がいを持たれた人たちについても、行政・福祉・医療・住民がネットワークを構築して解決していくことの大切さを感じた次第です。

まだ、心地良い秋風を受けるには暫くかかりそうです。どうぞ体調など崩さぬよう、お身体ご自愛下さい。

（F）